

JHF REPORT



2020年度定時総会を開催しました

9月2日（水）、東京都北区の「北とぴあ」第二研修室において、2020年JHF定時総会を開催しました。当初は6月23日を予定していましたが、新型ウイルス感染症による緊急事態宣言が出されたため、9月に延期。また、感染者が減少しないことから、時間短縮、人数制限をしての開催となりました。参加は全国47の正会員（都道府県連盟）で、うち出席が6会員、委任状3会員、議決権行使（＊）が38会員と、正会員には感染症対策にご協力をいただき、感謝申し上げます。

*議決権行使：JHF定款第4章「総会（議決権）」第16条に則り、総会に出席しない正会員は書面により議決権行使することができます。

議題は以下のとおりです。

報告事項1：2019年度事業報告

報告事項2：2019年度決算報告・監査報告

決議事項1：貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認→賛成45（うち議決権行使36）で承認された。

報告事項3：2020年度事業計画

報告事項4：2020年度収支予算

決議事項2：会費値上げについて→賛成32（うち議決権行使26）で承認された。

決議事項3：JHF役員選任規約改正について→賛成41（うち議決権行使36）で承認された。規約はJHFウェブサイトの「制度総覧」を参照。

議事進行前に、日本学生フライヤー

連盟、平井聰雄理事長からの報告を司会が代読。報告内に、エリアでのフライトだけでなく他エリアの学生との交流も考えていきたいとの要望もありました。各エリアの皆さん、学生連盟の活動等に引き続きご理解ご協力をお願いします。

会費値上げは2021年4月から。1年会費7,000円、3年会費21,000円とします。



十分に間隔をあけて着席し議事に臨む。感染防止のため、各委員長や学生連盟の方々の出席は遠慮いただいた。

JHFフライヤー会員の皆さん 会費値上げのお知らせ

2020年JHF定時総会において、2021年4月1日より年会費を値上げ（1年会費7,000円、3年会費21,000円）することが承認されました。

JHFは2009年6月総会において2010年1月からの会費改定を決議しました。このときの改定の大きな理由は、事故による高額保険金支払いが相次いだために引受保険会社が赤字となり保険料が約3割値上げされたことでした。この会費改定により、それまでの年会費3,500円から1,000円上がって4,500円になり、同時に500円を年会費とともにJHFが集め正会員に交付することになりました。

今回の値上げの最大の理由は、会員数減少による収入の不足です。2010年

当時に約9,700人いたフライヤー会員が現在では約6,000人に減少しているため、収入の約7割であった会費収入が減り、次第に単年度では赤字の収支が続き、当時積み立てた公益目的事業基金のうちの最後に残っていた1,800万円を2019年度にJHFの一般会計に組み入れました。

支出の節約が必要ですが、JHFの維持運営と委員会事業の経費については大幅な削減は難しく、削減することによるJHF運営に問題が発生することの懸念、存在意義を失わせることになります。そこで、さらなる事業費の見直しや節約に努めることを前提に、2021年4月1日からの新規加入、更新時期を迎える皆さまより年2,000円の値

上げをお願いすることになりました。事業費の節約や収入を増やすことについては、総会で正会員からも提案、意見があり、今後理事会で検討していきます。会費徴収の効率化についても検討します。

大変心苦しいお願いですが、会員サービスを低下させないことと、安全にフライトを楽しんでいただける環境を整えられるよう、会員の皆さんにはご理解ご協力くださいますようお願い申し上げます。

詳細は、JHFレポート次号やJHFウェブサイトでお知らせする予定です。お問い合わせやご意見は、事務局業務の効率化のためメールでお願いします。
E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFの2019年度事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2019年度事業報告」より

I 概要

2019年度はJHF上級タンデム技能証制度のスタートに伴い全国各地で上級タンデム技能証検定会が行われました。競技関係では、8月に開催された第16回FAIパラグライディング世界選手権において日本チームが銅メダルを獲得しました。安全面ではパイロット安全セミナーを4カ所で開催し、プレフライトチェックを徹底するためのチェック5タグの普及促進、事故ゼロキャンペーン等の安全啓蒙活動を行いました。しかし、ハンググライダーの空中衝突による重大事故が発生するなどしており、今後も安全対策には力を入れていく必要があります。

1. 収支の現状

前年度からの次期繰越金が29万円弱となる中で、単年度赤字を続ける方針を取り、今年度はいよいよ公益目的事業基金1800万円を取り崩しました。2年に一度の世界選手権イヤーであり、上級タンデム技能証の検定会の全国展開を本格化し、さらに3年に一度の開催となる教員検定員研修検定会が行われ、資金需要の旺盛な2019年度となりました。そのような中、昨年度落ち込んだ有効フライヤー会員数が、一過性でなく2019年度も前年度比5%の減少を見せJHFの収入減が顕著となっております。このため従来から報告していた、基金取り崩しから3年程度は運営資金をまかなえるという見通しの通り、2021年度にはほぼ余裕がなくなる見込みとなりました。

絶対に保険引き受け拒否を招いてはならないという命題のもとに、個人賠償責任保険（フライヤー保険）については永年対策として交渉を続けています。数年前に保険業界による一律見直しにより保険商品のリセットが行われ、保険料の負担は減少しましたが、同時に損害率の急上昇のリスクにさらされており、徐々に保険料の上昇の流れになっております。今後JHFの収支にとって、より大きな負担となる予定です。

2. 組織運営等

- 教員検定員研修検定会を2月18日～20日に開催、21名が参加
- 教員検定員による教員助教員更新

講習会を10カ所で開催、71名が受講

- レスキューパラシュートリパック更新講習会を11カ所で開催、43名が受講
- 教員技能証学科検定について集合研修検定を2月14日～16日に開催、9名受検
- 上級タンデム検定会を開始、13カ所、232名受検
- 第6回JHFフォトコンテストを開催

3. 特記事項

- 第42回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛 7月27日～28日 滋賀県彦根市松原水泳場周辺
- 令和元年度一般財団法人日本航空協会「空の日」航空関係者表彰式が開催（9月20日）され朝日和博さんが国際航空連盟（FAI）エアスポーツメダルを受賞。自作機での挑戦を原点に、日本のハンググライディング草創期よりフライヤー組織の立ち上げに尽力し、1982年からJHF会長等の役職を務め、教員として長年活躍されてきた。また、パラグライダーの呉本圭樹さんに日本記録証が授与された。直線距離375km（2018年12月2日 オーストラリア）
- 一般財団法人日本航空協会の航空スポーツ教室「スカイ・キッズ・プログラム」の第44回（8月3日～4日）、第45回（1月26日）に東京都ハング・パラグライディング連盟が協力
- 第25回スカイスポーツシンポジウムを協賛 11月30日～12月1日 都立産業技術高等専門学校（荒川キャンパス）

II 事項別状況

1. 組織

1) 会員数

正会員47 フライヤー会員6,891名(2020年3月末有効登録数) 賛助会員10

2) 役員構成（2020年3月末現在）

理事7名（内会長1名、副会長2名）
監事2名

2. 会議等の開催

1) 総会

2019年6月通常総会

開催通知：2019年4月5日

開催日：同年6月11日11:00～17:00

開催場所：北とぴあ 7階・第二研修室（東京都北区王子）

報告事項1：2018年度事業報告について
報告事項2：2018年度決算報告について
決議事項1：貸借対照表及び
損益計算書の承認について 報告事項3：2019年度事業計画について 報告事項4：2019年度収支予算について
決議事項2：JHF役員選任について
2) 理事会（ ）内は出席者数
第1回 5月9日（理事8、監事1）
第2回 6月11日（理事8、監事1）
第3回 6月11日（理事7、監事1）
第4回 7月30日（理事7、監事1）
第5回 10月1日（理事7、監事2）
第6回 12月6日（理事7、監事2）
第7回 3月5日（理事6、監事1）
第8回 3月27日（理事7、監事1）
文書理事会 5月13日・15日・29日、
7月1日、10月31日、1月7日・22日・
23日・28日

3) 委員会

- ハンググライディング競技委員会
競技会開催時に実施
- パラグライディング競技委員会
競技会開催時に実施
- 補助動力委員会
4月22日、1月27日
- 教員・スクール事業委員会
4月9日、5月28日、7月2日、9月
17日、11月12日、1月20日
- 安全性委員会
5月28日、11月22日
- 制度委員会
ハングパラ振興委員会 10月30日
- 役員選任実行委員会
5月9日、6月18日
- 委員長理事合同会議 2月28日
上記のほか電子メール会議を実施し、
経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

1) 普及振興活動

- JHFレポートを発行（4月、7月、
10月、1月）*独立行政法人日本スポーツ
振興センター・スポーツ振興くじ助
成を受けて発行しています。

- 都道府県連盟事業費の交付

- 日本学生フライヤー連盟へ助成金の
交付

2) フライヤー会員登録

2019年度新規・更新登録数5,145名
(2018年度5,510名)

3) 技能証発行 () 内は2018年度
ハンググライダー199枚 (216枚) パラ
グライダー782枚 (868枚) モーターパ
ラグライダー11枚 (14枚) レスキュー
リパック認定証66枚:新規18・更新48

4) 競技会の主催・公認・後援

ハンググライディング17件 (内FAIカ
テゴリーI・II: 6件) パラグライ
ディング26件 (内FAIカテゴリーI・
II: 2件) ハング・パラグライディ
ング同時開催8件

5) 競技会の開催

●ハンググライディング

○日本選手権 9月19日~23日 茨城
県石岡市足尾山エリア 参加50名 日
本選手権者:田中元気 女子日本選手
権者:谷古宇瑞子

○クラスV日本選手権 4月12日~14
日 茨城県石岡市足尾山エリア 参加
14名 日本選手権者:板垣直樹

○ハンググライディングシリーズ (参
加80名) 1位:田中元気 女子1位:
佐野容子

○ハンググライディングフライトコン
テスト [フリーディスタンス] クラ

スV1位:松田隆至 クラスI1位:
砂間隆司 [アウトアンドリターン]
クラスV1位:松田隆至 クラスI
1位:田中元気 [トライアングル]
クラスV1位:板垣直樹 クラスI
1位:田中猛 [デュレーション] 1
位:大沼浩

●パラグライディング

○日本選手権 4月26日~30日 石川
県白山市獅子吼高原スカイレジャーエ
リア 参加97名 不成立

○アキュラシー日本選手権 11月16日
~17日 千葉県山武市本須賀海水浴場
参加25名 日本選手権者:菊田高司
女子日本選手権者:伊藤まり子

○ジャパンリーグ (参加113名) オー
ープンクラス1位:岩崎拓夫 オープン
クラス女子1位:山下敦子 スポーツ
クラス1位:田中健

○ジャパンリーグ (参加104名)
総合1位:森山寿幸 女子1位:鈴木
彩 チーム1位:塾びよ

○クロスカントリーリーグ (18名70
本) 1位:大曾根淳 最長フライト:
大曾根淳 (134.5km)

○アキュラシージャパンリーグ (参加
46名) スクラッチクラス1位:岡芳
樹 スクラッチクラス女子1位:伊藤

まり子 ハンディキャップクラス1
位:岡芳樹 学生クラス:該当者なし
チーム1位:Airkassy

6) スクール・エリア情報の収集及び
公開

●スクールサイト登録校167件 (削除
2件、新規4件)

●エリア情報掲載172件 (削除4件、
新規1件)

7) 海外関係団体活動

●CIVL総会 2020年1月30日~2月
2日 スイス 出席者:岡芳樹 (デレ
ゲイト)、牟田園明 (ハンググライディ
ング競技委員)

8) 世界選手権等へのチーム派遣

●第22回FAIハンググライディングク
ラスI世界選手権 参加選手:6名
7月13日~27日 イタリア

●第16回FAIパラグライディング世界
選手権 参加選手:4名 8月5日~
18日 北マケドニア

●第10回FAIパラグライディング・ア
キュラシー世界選手権 参加選手:4
名 9月8日~18日 セルビア

9) その他

●機体型式登録:20件 (パラグライダー
20件、ハンググライダー0件)

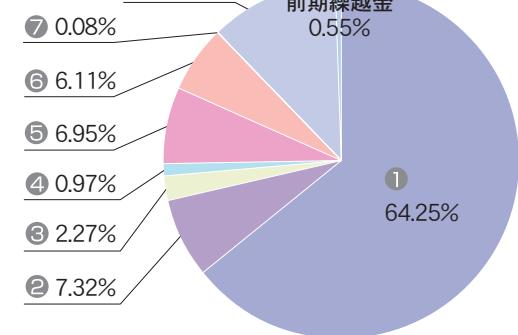
●機体情報登録:0件

2019年度決算報告より

収入 (単位:円)

①会費等	33,570,909
②技能証の発行に基づく収入	3,823,000
③競技に関する収入	1,184,000
④教本等の頒布に伴う収入	506,100
⑤検定会参加費	3,633,000
⑥補助金	3,190,000
⑦機体登録費	40,000
⑧その他	6,013,540
前期繰越金	286,254
合計	52,246,803
特定資産取崩	21,641,527

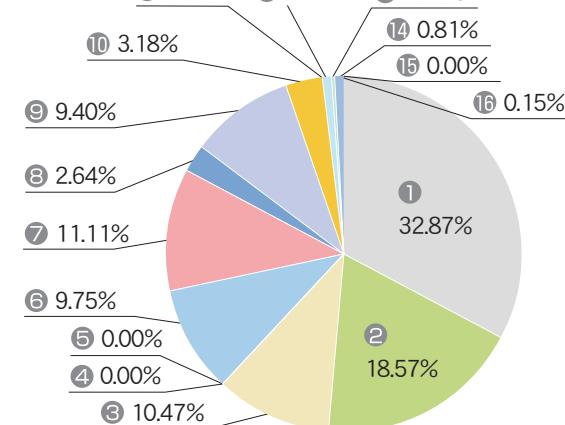
収入の割合



支出 (単位:円)

①会員サービスのために	17,907,854
②JHFの維持運営のために	10,119,034
③都道府県連盟の補助のために	5,703,781
④公益事業の推進のために	0
⑤世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	70
⑥広報・普及活動のために	5,313,618
⑦日本選手権や国体デモスポのため	6,051,350
⑧競技のために	1,439,928
⑨よりよい教習環境のために	5,122,913
⑩委員会活動のために	1,733,797
⑪補助動力のために	0
⑫学生の補助のために	424,000
⑬事故調査や安全のために	153,941
⑭海外との交流のために	438,973
⑮制度のために	0
⑯総会のために	79,347
合計	54,488,606

支出の割合



2019年度の委員会活動

2020年JHF総会資料「2019年度委員会活動報告補足」より

JHFには現在八つの常設委員会があり、各委員は連盟活動の担い手として活躍しています。以下は2020年総会で報告された委員会の活動内容です（一部略、HG：ハンググライディング、PG：パラグライディング、MPG：モーターパラグライディング）。

ハンググライディング競技委員会

委員長：板垣直樹

1) ルールブックの改訂
2) 委員会ホームページの運営
公認大会の情報、ハンググライディング・クラスマッチのエントリー情報の更新は随時実施
3) 第22回FAIハンググライディング・クラス1世界選手権選手派遣（トルメツオ イタリア） 7月13日～27日 約120名参加 鈴木由路12位、加藤実24位、田中元気26位、砂間隆司39位、太田昇吾56位、佐野容子120位 国別5位
4) 2019年ハンググライディング・クラス1日本選手権開催（茨城県足尾山エリア） 9月19日～23日 50名参加 タスク4本成立 日本選手権者：田中元気、2位岡田伸弘、3位砂間隆司、4位鈴木由路、5位氏家良彦、6位石坂繁人 女子日本選手権者：谷古宇瑞子 2位内田秀子、3位櫻井さやか
5) 2019年クラスV日本選手権開催（茨城県石岡市足尾山エリア） 4月12日～14日 14名参加 タスク2本成立 日本選手権者：板垣直樹、2位櫻井大朗、3位佐々木則生
6) ハンググライディングシリーズ管理運営 参加80名 1位田中元気、2位砂間隆司、3位大門浩二 女子1位佐野容子、2位内田秀子、3位櫻井さやか
7) フライトコンテストの運営

[フリーディスタンス] クラスI 1位 砂間隆司157.04km、2位石坂繁人152.51km、3位氏家良彦142.89km クラスV 1位松田隆至208.92km、2位岡田伸弘186.69km、3位佐々木則生151.5km [アウトアンドリターン] クラスI 1位田中元気156.78km、2位氏家良彦80.43km、3位砂間隆司75.2km クラスV 1位松田隆至116.31km、2位山本剛102.47km、3

位佐々木則生69.38km [トライアングル] クラスI 1位田中猛68.26km、2位中村智史68.01km、3位太田昇吾63.53km クラスV 1位板垣直樹101.3km、2位山本剛90.42km、3位松田隆至83.52km [デュレーション] 1位大沼浩07:50:11、2位佐々木則生07:11:00、3位松田隆至06:51:20
8) 各種大会のJHF公認および後援申請に対する審議および承認
9) SNSによる情報発信
10) ライブトラッカーの購入検討
ライブトラックシステムの運用は競技委員会とは独立した組織に委任した。競技委員会としてはライブトラックを積極的に競技に取り入れていく方向で進めている。

パラグライディング競技委員会

委員長：岡 芳樹

1) ルールブックの改訂
2) WEB事務局・ホームページ管理
3) 第16回パラグライディング世界選手権（北マケドニアKrushevo 8月5日～18日）へ選手4名派遣 参加選手150人（内女子21人） 参加国：48か国 総合1位Joachim OBERHAUSER（イタリア）、2位Gleb SUKHOTSKIY（ロシア）、3位Honorin HAMARD（フランス）、7位廣川靖晃、54位呉本圭樹、75位平木啓子、95位成山基義 女子1位Meryl DELFERRIERE（フランス）、2位Yael MARGELISCH（イスラエル）、3位Kari ELLIS（オーストラリア）、5位平木啓子 国別1位フランス、イタリア、3位日本
4) 第10回アキュラシー世界選手権（セルビアVrsac 9月8日～18日）へ選手4名派遣 参加選手131人（内女子22人） 参加国28か国 総合1位ウー・ヨン（中華人民共和国）、2位イルヴァン・ウイナリア（インドネシア）、3位マティアス・スルーガ（スロベニア）、93位岡芳樹、97位伊藤まり子、122位古田岳史、126位川村眞 女子1位ソヨン・チョウ（大韓民国）、2位ユンヨン・チョウ（大韓民国）、3位ジョージアナ・ビルゴズ（ルーマニア）、11位伊藤まり子 国別1位インドネシア、2位中華人民共和国、3位

コロンビア、19位日本

5) Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理

[Jリーグ] 参加113名 オープンクラス1位岩崎拓夫、2位呉本圭樹、3位上山太郎 オープンクラス女子1位山下敦子、2位平木啓子、3位中目みどり スポーツクラス1位田中健、2位小田雅也、3位川名美江

[J2リーグ] 参加104名 総合1位森山寿幸、2位鈴木彩、3位梅本昌克 女子1位鈴木彩、2位富永あゆみ、3位四方純 チーム1位塾びよ、2位ふえあり、3位エリアヤマザキ

[XCリーグ] 18名、70本 1位大曾根淳433.9km、2位多賀純一427.6km、3位中川喜昭408.3km 最長フライト大曾根淳134.5km

[AJリーグ] 参加46名 スクラッチクラス1位岡芳樹、2位和田浩二、3位日野正浩 スクラッチクラス女子1位伊藤まり子、2位菊田久美、3位橋本みさ紀 ハンディキャップクラス1位岡芳樹、2位和田浩二、3位日野政浩 学生クラス該当者なし チーム1位Airkassy、2位飛魔人くらぶ、3位エキストラ、大台

6) 2019年度XC日本選手権開催（石川県獅子吼エリア 4月26日～30日） タスク0本成立／5日 97人参加 規定により日本選手権として不成立

7) 2019年度アキュラシー日本選手権開催（千葉県須賀海水浴場 11月16日～17日） 4ラウンド成立 25人参加 規定により日本選手権として成立 日本選手権総合1位菊田高司、2位岡芳樹、3位和田浩二、4位日野正浩、5位伊藤まり子、6位塚原隆信 日本選手権女子1位伊藤まり子、2位望月奈緒、3位内田薫

8) ライブトラッカーを試験導入 2019 Autumnスカイグランプリ in ASHIO、2019年スカイグランプリ in 吉野川

安全性委員会

委員長：竹村治雄

1) 2019年度事故件数 PG26件（内重大事故4件）、MPG4件（内重大事故1件）、HG5件（内重

大事故 2 件)

2) 機体登録制度の推進と改訂検討
(EN926-1、EN926-2認証機体の登録簡素化)

3) PG・ MPGパイロットセミナーの開催実績

4月7日 PG/MPG 青森県連盟 安全セミナー 22名 古川

4月17日 PG/MPG 北海道連盟 安全セミナー 13名 田代

12月22日 PG 長野県連盟 安全セミナー 22名 加賀山

2月2日 PG 福岡県連盟 安全セミナー 25名 小林

4) セーフティーノーツの管理 (担当:竹村)

定期的にDHV、BHPA等の情報を確認し、可能な範囲でホームページに反映

5) ハンゲ機体整備制度・現状調査 (担当:西本)

6) 安全性委員会ホームページ状況管理 (担当:伊尾木)

定期的に確認

7) 事故ゼロキャンペーンの実施 (全国スクールおよびクラブエリア宛て)

8) チェック 5 タグの普及促進 (安全注意喚起)

【5項目】レスキューピン、ラインチェック、バックル (レッグ→チェスト)、無線機 (通信→ロック)、風の状況

教員・スクール事業委員会

委員長:北野正浩

1) PG・HG・ MPGパイロット安全セミナーの開催

2) 教員実技検定会 PG 4名、HG 0名

3) 教員学科集合検定 (2020年2月14日～16日) 参加 9名 (受検PG 7名、HG 2名)

4) 教員の資質向上の支援 ※実施せず

5) 教員助教員更新講習会 10カ所 71名受講

6) レスキュー・パラシュートリパック認定証更新講習会 11カ所 43名受講

7) レスキュー・パラシュートリパック認定証検定 新規認定17名

8) PG教本改訂版の発行 (最終校正段階)

9) HG教本の発行 (最終校正段階、制度委員会に技能証規程の確認を依

頼)

10) PG・HG学科試験の見直し ※完了はリパック認定証の学科試験のみ
11) パイロット証更新制度導入に向けた検討 ※当面は延期。教員制度の見直しが先と判断

12) 上級タンデム技能証検定会を開始 13カ所 232名受検

13) 教員検定員研修検定会を開催(2020年2月18日～20日 静岡県朝霧エリア) 実技検定も実施 参加21名 (PG17名、HG 5名、両方:各内数1名)

14) チェック 5 タグの制作と配布 (安全性委員会と合同)

15) スクール支援のためのニュースの定期配信 ※実施せず

補助動力委員会

委員長:須藤 彰

1) 事故報告

1 : 4月29日 滋賀県大津市 MPG 証3年 タンデムローパスで、誤って着地しそのまま離陸するも少ししか上昇せず。水路を渡ったコンクリート部分に接触、パッセンジャーは無傷、パイロットは骨折重症。

2 : 7月17日 静岡県海岸 MPG・JPMA 離陸直後、失速・強打・死亡

3 : 7月21日 北海道 MPG・P 証離陸時、乱れたまま加速失敗し、前面から転倒、顔面強打、サングラスをしていたため眼底骨折。

4 : 9月2日 栃木県鳥山 MPG 高度2700mで火災 降りてくるまでに時間がかかり、火傷・重症。エンジンユニット改造・実験中。

2) 補助動力と安全性委員会からフライヤーへ注意喚起を出す

9月2日の飛行中火災事故のため、無用な改造をしない・エンジンユニットの再点検を呼びかける。

3) イベント大会に関して

予定をしていたイベントが台風の影響で中止

4) MPG安全マニュアル作成 (小冊子)

3月までに作成、来期配布予定

制度委員会

委員長:中瀬 誠

1) JHFにかかる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理
- 理事会諮問事項への答申等
- 規程改正案作成と理事会上程

JHF会計処理規程

JHF公印取扱規程

JHF理事職務分担規程

・JHF技能証規程改正案作成と理事会上程

上級タンデム証制定により改正

ハンゲグライディング教本改正に伴い改正

・JHFホームページ上の総覧整備 (規程改正およびFAI部分)

<https://jhf.hangpara.or.jp/office/office.html>

- FAI技能記章、公式立会人に関する事項の研究

・ハンゲグライダー公式日本記録申請支援

2) 他委員会および事務局との連携

- 各種制度導入および改正について教員・スクール事業委員会と検討

・上級タンデム証制定により改正

・ハンゲグライディング教本改訂により技能証規程改正案作成し理事会提出

・JHF教員助教員更新講習会規程

パラグパラ振興委員会

委員長:井上 潔

1) 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作りの検討 (継続)

- フライヤーズボイスの定期更新体制の運用と継続的見直し

- 飛ぶのを止めてしまった方の状況分析

- 学生が卒業して止めてしまう問題の分析と対応策検討 (学連と連携)

- 家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ (仮称)」制作、学生向けに配布開始

- JHFレポートの活用検討 (特集記事など)

- SNS (Facebook等) を活用した情報発信の検討

2) 体験会等イベントへの協力

- 体験会を安全に実施するための指針検討 (安全性委員会へ引き継ぎ)

3) 外部組織との連携

- VR体験に関する大学研究室との協力体制維持

4) HG教本およびPG教本改訂への協力

役員選任実行委員会

委員長:鈴木由路

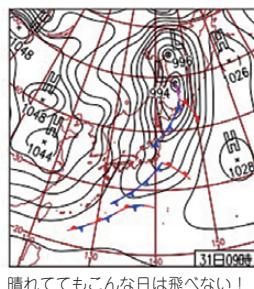
1) 2019年度総会における役員選任の実施

気象のお話：風が強い日に気をつけたいこと

気象予報士/HGパイロット ちー

次の土曜は、飛びに行こう！ そう思ったら、まずは天気予報をチェックですよね。一日、晴れ！ よし、楽しみだなー！ っと、ちょっと待って待って。フライヤーたるもの、風の確認は欠かせません。東風？ 北風？ 午後から強くなる？ 風向が変わる？ ウェザーニュース、GPV、Windy… Web上には様々な風予測があります。一日の風の変化を、下準備として頭に入れておきましょう。

あわせて、天気図も確認しておきたいですね。冬型が緩むところなのか、低気圧が発達するところなのか、危険な前線は近づいてないか？ 等圧線が混みあっていると風は強くなります。



これからの季節、冬は風が強くなる日が多いです。シベリア（大陸）が冷えに冷え、一方日本周辺の海は陸地と比べると暖かく、西高東低の気圧差が大きくなるためです。また、寒気が入って、日中に逆転層を破って上昇気流が高くなるまで到達するようになると、上空の強風が地上まで降りてくることも一因です。ええ～、じゃあ初心者は飛べないの？ いえいえ、サーマルが活発になる日中は難しいなら、逆転層がブレイクする前の朝のうちに飛ぶ、もしくは夕方風が落ち着くのを待って飛ぶ、狙い目はあります。※エリアの特性に

よって差があるので、インストラやベテランフライヤーと話をしましょう！

さて、風が強い日は、普段より気をつけたいことが増えます。

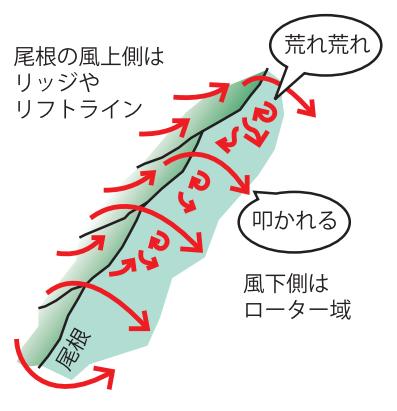
■サーマルを探して粘っていたら、風が強くて、ランディング場に届かない！ →普段より高度に余裕を持ちましょう。安全にランディング場に行けることが最優先。

■風に流されるサーマルに乗っていたら、稜線を越えてしまって、振り返ったら帰れそうにない！ →とても危険！ 風に流される分も考えて、稜線は越えないように気を付けて。今いるサーマルだけに気を取られず、周りを見ましょう。自分の位置確認はもちろん、あのパラグライダーは上がっていいるかもしれないし、実は前の雲が発達していることに気づけるかも。

■気づいたら雲底間近、吸い上がって前に進まない！ どっちに行ったら雲から逃げられるの？ →これも危険！ 常に雲の風上側で上げることを意識しましょう。大きな雲の中心で上げる時は、上げ切る前に風上方向へ移動すること。上げながら自分が近づく雲を直接見上げたり、地上に落とす雲の影から雲の形、成長、並び方を確認するのも有効です。飛びながら風向きがわかれば一番ですが、下準備で仕入れた風情報も役に立ちます。

■いつもは何てことない谷、なんか…進まないんですけど… →ベンチマーク効果（図1・図2）で風がさらに強くなっているんです。吹き抜けにはると、初級機はほとんど前に進めなくなります。谷には近づかないか、奥に入り込まないように前の方を通過し

図3



て。逆転層があると山の稜線上でも同じように風が強くなることもあります。

■すごく荒れてた…怖かった… →尾根の風下側はローター（乱気流）の巣です。風向きと地形から飛ぶコース、入らないエリアを判断しましょう（図3）。

■ランディングアプローチでターンが入らなくって障害物が近くなつてびびった… →フォローを背負った時のターンは入りづらく、自分で思うより奥まで流されます。ターン前には速度をつけて、早めのターンを心がけて。

■フレアーカーたら、吹っ飛んだ！ →風が強すぎる時にはベースバーを持ったまま、減速だけで着陸することもあります。

■（番外編）寒くって指が動かない… →冬用の装備を見直しましょう。インナー付の手袋にして、足用カイロ・ミニカイロを貼るという最終手段もあります。

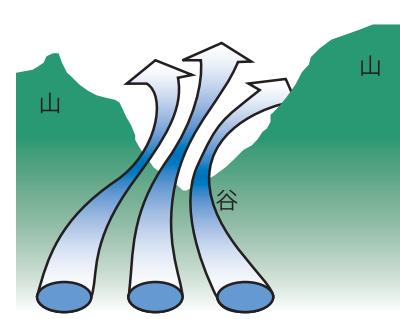
ランディングを苦手に感じている人に、冬は朗報。乾燥した低温の大気は空気密度が高くなっているので、フレアーカーはかかりやすくなります。この冬も、楽しく飛びましょう！

ちー

ホームエリア：足尾HG。パイロット歴：約20年。「風や気象に詳しく理論的に飛び回っているベテランフライヤーの話を理解したくて気象予報士の勉強をして、資格も取れました。大会や女子世界選手権にも度々参戦。異国の空を飛べることと、言語の壁を越えて遊べることが世界選の醍醐味です。」

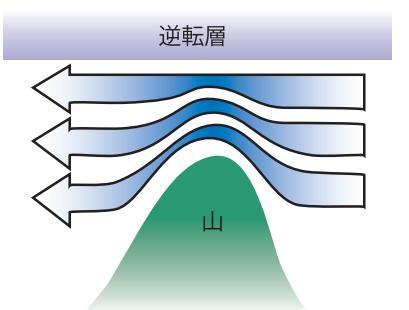


図1



ホースの先をつまむと、狭い隙間から水が勢いよく飛び出る=谷を抜ける時風は強く吹く

図2



夏の重大事故について／安定したティクオフ

JHF安全性委員会 委員長 竹村 治雄

この夏にはモーターパラグライダーの着水死亡事故、パラグライダーのティクオフ直後の潰れによる墜落がありました。着水事故は、着水時のことを考えた装備をしてフライトすれば簡単に防げる事故です。JHFでも注意喚起を発出していますのでご確認ください。また、安定したティクオフをするための基本を以下に挙げます。

安定したティクオフの重要性を理解する

ハンググライダー、パラグライダーともにプレフライトチェックの重要性については以前お知らせしたとおりです。プレフライトチェックは、レッグベルトの閉め忘れや、ハンググライダーのハーネスの接続ミスを防ぐために有効ですが、ティクオフ動作そのものも安定したスムーズな動作となっているか振り返ることが重要です。特にパラグライダーは一連のティクオフ動作で、翼となるキャノピーを立ち上げて翼として機能する状態を作りながらフライトするため、ティクオフ動作が不安定だと、その直後のフライトもピッチングやローリングを伴った状態となり、ティクオフ前の空域が荒れている場合には、キャノピーのつぶれを誘発することになります。

例えばピッチングを起こしたままティクオフをすると、グライダーの迎え角がその分変化しながらフライトしていることとなり、乱流などの影響を受けやすくなり翼の潰れが生じやすくなります。ピッチングは、飛び乗りや、グライダーがパイロットを追い抜き気味の状態でティクオフすることで発生します。そのほかにもティクオフ前の

サーマル等の影響もあります。ピッチングが生じた場合は、確実にとめてグライダーを安定させましょう。

頭上のキャノピーを確認してティクオフ

フロントティクオフ、クロスハンドティクオフいずれの場合でも、頭上のキャノピーがきちんと翼の形になっていることを確認してティクオフすることは、パラグライダーのフライヤーなら誰でも知っていることですが、実際のティクオフでは意外にできていないようです。

クロスハンドティクオフの回転はキャノピーが真上に来てから

クロスハンドティクオフで、キャノピーが頭上にくる前に回転（ティクオフ方向に向き直る）を始めるフライヤーも多数見受けられます。この場合、キャノピーの頭上安定を確認する前に回転を始めることとなります。基本どおり真上まで来てから回転する方が樂ですし、回転するときにラインを避けるために反り返ったりする必要もありません。

ティクオフ直後はスタンディング姿勢で

タービュランスの影響等による万が一の事態に備えて、スタンディング姿勢を一定の高度がとれるまでは維持しましょう。

これにより、離陸直後に着地することとなっても足から着地でき、腰から落ちる場合と比べて腰椎への衝撃を減らすことができます。

ティクオフ直後にブレーキハンドルから手を離すことは厳禁

ティクオフ直後にハーネスに座ったり、ポッドハーネスのポッドを閉じるために片手あるいは両手をハンドルから離して操作しているフライヤーがまだ散見されます。ティクオフ直後の乱流に対応するためには、適切なブレーキ操作が必要です。ある程度の高度がとれるまでは、ブレーキハンドルから手を離すことは危険です。潰れそうな場合に適切にブレーキ操作をすることで潰れを防げる場合があります。また、大きく潰れた場合に直線飛行を維持するためにもブレーキハンドルから手を離してはいけません。

筆者が数年前に訪れたイカロスカップのフリーフライトで、あるフライヤーがティクオフ直後に両手を離してハーネスに座り直す動作をしていたときに片翼が大きく潰れ、フラットスピントのままティクオフ下に落下するのを目撲したことがあります。同様の事故が以前にもあり、ティクオフ直後にはブレーキハンドルを離さないようにと注意喚起がなされている中でのアクシデントでした。

これからは、クロスカントリー飛行に適したシーズンです。安全なティクオフを心がけてフリーフライトを楽しむようご協力をお願いします。

カラビナの変形に注意！

カラビナの変形について報告がありました。

パラグライダーのタンデム飛行でライザーとスレッダーバーの接続部に使っているカラビナ。材質はスチール。約5年間使用。飛行前のセットアップ中に変形を発見し、使用を中止したもの。

カラビナも定期的な交換が必要です。特にタンデムでは、メーカーが示す半分の期間での交換を推奨します。

詳しくはJHFウェブサイトのトピックス、「カラビナにおける変形について（注意喚起）」をご覧ください。



キャノピーが頭上に達する前に回転している例（キャノピーの影に注目）。

ベテラン初心者によるティクオフ事故

JHF安全性委員会 委員 山本 貢

もう何十年も飛んでいるはずなのに、基本技術がまったくないハングフライヤー。私はこのような方たちを「ベテラン初心者」と呼んでいます。エリアにはよく顔を出すはずなのに、そして、ハンググライダー界の裏情報についてはやたら詳しいのに…。そんな方のティクオフを見てみると、かなりの方が「ベテラン初心者」のティクオフになっています。

具体的にこのベテラン初心者のティクオフを説明してみると…。

- ・グライダーのホールドがなっていない。
- ・アップライトへの持ち替えが早すぎて、その瞬間にノーズが上がってしまっている。
- ・走りが足りずに飛び乗っている。
- …等の特徴があります。

当然ですが、このような基本を守っていないティクオフを繰り返していくれば、そのうち事故につながってしまいます。事実、このような基本を守らな

いことによる死亡事故、重大事故は現に起こっています。

では、そのような事故を防ぐにはどうすればよいか…。簡単なんです。講習場で練習すればよいのです。

しかし、ほとんどのベテラン初心者はそれを実行してくれません。その理由は「変なプライド」を持っているからです。このくだらない変なプライドが、ベテラン初心者の心の中にあるために、講習場での練習をしてくれないのです。

でも、ちょっと考えてみてください。講習場での練習って、本当にカッコ悪いことでしょうか？

私は明らかに違うと思います。講習場での練習の方が、上空を飛ぶよりも誤魔化しがきかないためかえって難しく、きれいな模範飛行をしてみせるって、かなり技術が必要なことだと思います。

私は、講習場で模範飛行が出来る技術を持つ者こそが、本当のベテランだ

と思います。

私自身、やはりこの講習場での練習は大切なものだと考え、たまにですが、講習場を貸していただき、自分自身のティクオフがちゃんと出来ているかセルフチェックをすることがあります。

この時、他にも講習生の方がいらっしゃるので、できればそんな方たちにうまくいくティクオフのイメージをつかんでいただけるような模範飛行をすることを心掛けて、練習しています。

私はこの行為は決してカッコ悪いことだとは思っていませんし、むしろ、フライヤーの模範を示す行為であると考えています。



講習場で、基本ができているかセルフチェックします。

学連ニュース

日本学生フライヤー連盟の広報担当の村瀬冬夏（千葉大学3年）と薩摩一喜（大谷大学3年）です。学連では、理事長、副理事、会計、HP係、広報、名簿係、渉外係、HGとPGのリーグ・審議、そして各地区理事と、分担して仕事を行っています。今回はこの各係の仕事内容について紹介します。

理事長は内部的にも対外的にも学連の代表としての役割を担います。副理事、会計と共に理事会を構成して各役職を統括し、事業計画・事業報告の作成、規則・大会などの審査や公認などを担当。年度末には学連総会を開催し一年間の振り返りと次年度への準備を行います。また、JHFの方々と連絡を取り、学生の代表として学生側の意見を伝えたりします。

副理事は理事長と共に各役職を統括しながら大会の公認審査、理事会をはじめ様々な面でサポートをしています。

会計係の役割は学連口座の管理や遠征補助金申請時の振込、学連費の徴収、

年度会計報告など、お金を管理する重要なもの。定期的に年間スローガンや予算案について議論し、今年は遠征補助金制度について主に話し合いました。

HP係は学連ウェブページの維持・管理を担当。年度に合わせ新しい情報が掲載されるようページを更新します。ウェブページの重要性は増しており、時代に即したものになるよう日々努力しています。

広報は、大会の告知や宣伝、JHFレポートの記事の作成が主な仕事です。今後はTwitterなどSNSを利用してより発信していくよう努めます。

名簿係は、各地区から名簿を集めて全体の名簿としてまとめる仕事です。各地区の人数を把握することで、学連費を集め際に役立っています。

渉外係は、主に各大会の協賛係をサポートします。やるべきことの確認、毎年同じミスをしないよう注意喚起することで協賛企業に失礼のないよう丁寧かつ慎重に仕事をしています。

HG・PGの審議は、大会競技規定を決める役割です。前年の競技規定を振り返り、今年の大会の競技規定を決定。参加者全員が大会を安全に楽しく行えるように大きく貢献しています。

HG・PGリーグは、大会に赴きリーグ集計をする仕事。年間ポイントも集計し表彰を行っています。速やかなGPSデータ提出等、いつも選手の方々にご協力いただき、助かっています。

地区連盟理事は、学連からの連絡を地区の各団体に伝えたり、大会・合宿の案内などを行います。地区によってはオンライン説明会や安全講習会などを実施し、学生フライヤーの増加や認知向上に取り組んでいます。

このように各係が責任をもって学生フライヤーがより活性化するよう仕事をしています。HPやSNSでも発信を行っていますので、ぜひご覧ください。
HP : <https://jsff.org/>
Twitter :
https://twitter.com/jsff_flyer

写真で空の仲間を増やそう!

第7回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 入賞作品発表

JHFフォトコンテストは、ハンググライダーやパラグライダーの写真を多くの人に見てもらうことによってこのスポーツの普及に繋げることを目的としています。毎年開催となって3年目、第7回を迎えた今回も「ハンググライダー、パラグライダーの楽しさ、美しさを表現した写真作品」をテーマに、多くの応募をいただきました（コロナ禍によりいつもより少ない点数でしたが）。ご応募、ありがとうございます。

フォトグラファーの嘉納愛夏さん、山本直洋さん、安田英二郎JHF副会長が厳正な審査を行い、江端邦昭さん撮影の「夜明けの空」を最優秀賞に決定しました。入賞された皆さん、おめでとうございます！

入賞作品と、応募作品のなかから選んだ季節感のある優れた写真を2021年JHFカレンダーにします。カレンダー頒布の詳細はJHFウェブサイトでご覧ください。

最優秀賞

江端邦昭「夜明けの空」

撮影地：福井県坂井市

●受賞者から●

前回応募の写真をカレンダーに採用いただき大変喜んでいましたが、今年は何と最優秀賞という栄誉をいただき、ただ感謝しております。昨年の写真も風景写真としてはすごくいいと自分では思っておりました。しかし連盟の写真としては何かが欠けている……美しいだけではダメで、やはりグライダーか、人とグライダーが写ってないといけないんだ。そう思いました。

グライダーが写り、なお背景がよく、印象派の絵画のように心に残る写真でないといけない、と思い直し、今年こそはと張り切りました。

写ってる相棒は東北の友達で、大会や全国行脚で機材を販売されており、フライトもピカイチ。わたくしのグライダーは24m²と大きく遅いのに対し彼の14m²と小さく早いグライダーです。わたくしが飛んでいてもあまりに遅い

ので、わたくしの周りを周回しながら飛んでくれました。お陰でまず撮れないアングルで撮ることができました。

秋が深まる朝、霧がまだ残るナシ園を背景に飛んでくれ、栄誉の半分は彼にもあり、感謝の気持ちで一杯です。

●嘉納評●

織り成す峰を見渡す風景に、霧と雲海が現れる絶好のタイミングで撮影された一枚です。朝陽の光線がまるで夢の中にいるような、想像の産物のような彩を添えています。この美しい風景を独り占めできる、自然の魔法を体感し、空を飛ぶことの素晴らしさを伝えてくれます。実際は撮影者が飛んでいるので独り占めではないのですが、それを忘れさせてくれるほど臨場感あふれる作品です。ところどころに見える光のラインや、手前の赤みを帯びた黄色からゴールド、グリーン、奥の紫がかかった雲の自然なコントラストも芸術的。

朝の冷えた空気や太陽が顔に当たる温度感・あたたか味も想像でき、見る

最優秀賞 江端邦昭「夜明けの空」



優秀賞 Rick Neves 「UP」



人が旅をする気分になれる写真でした。風景の切り取り方、被写体の配置もとても良いです。最後になりましたが、最優秀賞おめでとうございます。

●山本評●

森から上がるモヤ、光、影、色、シルエットになった山々の連なり。ぱっと見で美しいだけではなく、細部までしっかりと写っており素晴らしい作品です。

グライダーに朝陽が当たっていることで飛んでいるモーターパラグライダーの存在感もしっかりと出ています。日の出前から準備をして薄暗いうちに離陸したのだと思いますが、飛んでいる間に陽が射てきてこのような景色になった時の感動が伝わってきます。

この時間帯はほとんど上昇気流がないため、山から飛ぶ普通のパラグライダーでは長い時間飛んでいることができません。モーターパラグライダーだからこそ見られる景色です。こんな景色の中を飛んでみたいな、と思わせてくれるような作品です。

優秀賞

Rick Neves 「UP」

撮影地: Andradas BRAZIL

●受賞者から●

以前よく行っていたミナスジェライス州アンドラーダスにあるPico do gaviao

(鷹の峰)でのワンシーンです。その日は5月の肌寒い秋の日で、友人であり、パラグライダーパイロットであり、インストラクターでもあるファビオ・バルボサ・ジュニアが、リザーブパラシュートをリパックしていました。天気も良く、ブラジルの空と大地の鮮やかな色彩のなか、パラシュートに風を通すと、パラシュートがフワッと空に向かって広がったり、降りてきたりと、あたかもパラシュートと戯れているかのようでした。この風景を見ながら、あらためて飛ぶということがいかにシンプルに楽しいものであるかを感じたことを覚えています。

このような思い入れのある写真が優秀賞をいただけたことを大変光栄に思います。また、ファビオに受賞の報告をしたところ、自分のことのようにとても喜んでくれたので、カレンダーをあげようと思います。

●嘉納評●

選者一同「えっ」と意表を突かれました。予備傘（レスキューパラシュート）を主役に持ってくる大胆さに「やるなおぬし」。「えっ」という作品は時折見かけますが、大体が間違った方向に行きがち。しかしこの作品は構図、シチュエーション、光の当たり方などが素晴らしい、芸術性も高い。傘のデザインもクラシカルで素敵です。よく考えられた絵画のようで、画面を構成

する要素が大地、人、傘、空、4点のみという潔さに目を奪われました。主役のキャノピーを排し予備傘だけを写していることで、空中での安全をフライヤーの方々に無意識にあらためて喚起するようにも思います。

傘の様子から弱くはない風が吹いているはずなのだけれど、大地に長い草ではなく被写体の髪もたなびいておらず、傘だけ浮かんでいるので何か不思議な感覚にとらわれます。とても面白い作品です。

●山本評●

パラグライダーのレスキューパラシュートを開いているところを撮影した作品です。緊急時に使用するものなので普段開いているところを見ることはあまりないのですが、それを撮ろうという目の付け所がいいですね。まるで絵画アートのような作品で見入ってしまいました。

とにかく構図が素晴らしいです。レスキューパラシュートの角度、それを持っている人がシルエットになる位置、地面の入れ具合、どれもパーカクトです。ただ、パラグライダーやハンググライダーの楽しさが伝わるような写真ではないため最優秀とはなりませんでした。このクオリティーの作品を次回も応募していただけることを楽しみにしております。

入選

阿部貢造「自由時間」

撮影地：茨城県足尾山エリア



中村正哉「私も飛べるよ」

撮影地：山口県高照寺エリア



横田三郎「アレッチ氷河へ」

撮影地：スイス フィーゼュ



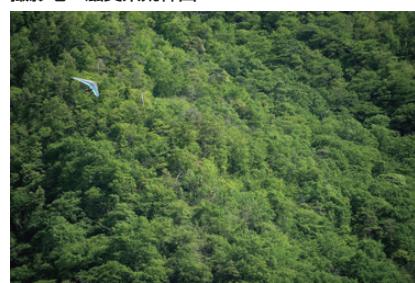
吳本圭樹「空の行く先」

撮影地：ブラジル



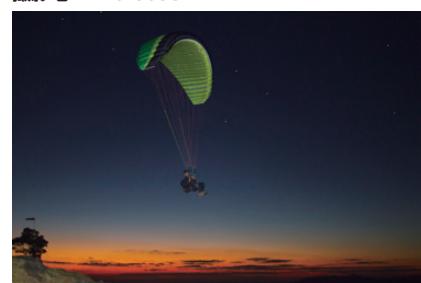
村山哲哉「新緑を飛ぶ」

撮影地：滋賀県荒神山



Rick Neves「Flying with stars」

撮影地：Andradas BRAZIL



審査員総評

嘉納愛夏

COVID-19の影響がある中、応募していただいた皆様ありがとうございました。緊急事態宣言がちょうど多くの花の咲く時期と重なり、例年であれば色とりどりの華やかな写真を見ることができましたが、今年は叶いませんでした。撮影者の方々も残念だったと思います。



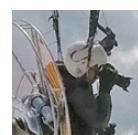
そんな中で目立ったのは、空とフライヤー単体という構図と、空中でのセルフポートレートでした。よく言えば原点回帰、悪く言えばバラエティ性に欠け退屈（似たような写真になってしまいます）。その退屈にならないようにするためには、他と一線を画す何かが必要で、その良い例は最優秀賞を獲得した江端邦昭さん撮影「夜明けの空」です。背景が秀逸で長時間眺めていても飽きません。優秀賞のネーヴィス・ビカルドさん撮影「UP」のようなユニークで芸術的な視点も参考になると思います。また、ウサギのぬいぐるみをハンググライダーの模型にくっつけて撮影したファンシーな写真が印象に残っています。色も良く、被写界深度をう

まく利用していました。

個人的には迫力のある圧倒される写真も見たいと思っていますので、また一年後を楽しみにしております。

山本直洋

新型コロナウイルスの影響もあり、例年よりも応募数は少なくなりました。それでもこれだけ多くの作品が集まり嬉しく思います。空を飛ぶことは密にはならないのですが、それでも飛んでいるとコロナ禍で飛ぶなんてけしからん！と言う人も少なからずおり、なかなか飛びに行くことができない日が続きました。それでも少しずつ状況も良くなってきて、久々に飛びに行くとやっぱり空はいいな！と改めて思います。



そして今回のフォトコンテストで集まった作品を見て、やっぱり写真で空の魅力を伝えることはできるんだと感じています。

来年は、今年あまり飛べなかったうつぶんを「すかっ」と晴らすよう楽しい作品が集まることを期待しております。

安田英二郎

今年は春に始まった新型コロナウイルスの感染拡大防止策として外出自粛が呼びかけられました。その影響が大きく「飛べないから撮れない」と応募数は百以下でした。しかし、応募作品が少ない中でも今までに見たことのない斬新な構図や絵柄の作品も見られ、すばらしい光とタイミングをつかんだ作品が高い評価を受けて上位に入賞しました。



少し残念だったのは、子供やペットや人を入れて地上から撮影した楽しそうな写真が少なかったことです。地上での撮影は道具を使ったり演出することも可能ですので、楽しそうな写真を工夫していただければと思います。

JHF予算の削減が求められる中で、いつまでフォトコンテストが続けられるかは分かりませんが、写真は飛ばない人でもすぐに理解できる優れたものですので、スカイスportsの普及に役立つようにできるだけ続けていきたいものです。

めざせ、フォトコン入賞!

空撮講座

〈前編〉

講師：山本直洋

「フライヤーなら誰もが空中から見た「景色」に感動したことがあるはず。この一瞬を切り取って、飛ばない人たちにも見せてあげたいなあ。でも空中撮影は難しそうだし……という人のために、JHFフォトコン審査員としてもおなじみのフォトグラファー、山本直洋さんが空撮の基本を教えてくれた。

まず飛行技術を身につける

パラグライダーで飛ぶと、日常生活では見られない視点からの景色を楽しむことができます。その視点から写真を撮ることで、地上では見えなかったものや感じなかったものを写すことができます。

一番簡単なパラグライダー空撮は、タンデム（二人乗り）で飛んでパラグライダーの操縦はパイロットに任せて、自分は写真撮影に集中する方法です。この方法であればパラグライダー技術は必要なく、誰でも気軽に空撮をすることができます。

しかし自分でパラグライダーをはじめると、やはり一人で飛んで自分で好きな場所へ行って撮りたくなるでしょう。ただ、一人で飛んで撮影すると、パラグライダーコントロールと撮影の両方を同時にこなす必要があるため、一気に難易度が上がります。最低限パイロット証を取り、パラグライダーコントロールは、ある程度頭で考えなくとも身体が自然に動いてくれるくらいの技術は身につけましょう。

とにかく安全を確保

一番危険なのは、撮影に集中するあまりパラグライダーコントロールがおろそかになり危険回避をできなくなることです。撮影に気を取られて斜面に接近しそうたり、電線や高い木などに気づかない危険性があるので、たとえ熟練パイロットであったとしても、飛ぶ前に撮影する場所の入念な下調べが必要です。



モーターパラでの空撮では右手にカメラ、左手にアクセルスロットル。まずは飛行技術を身につけることが重要。

空撮は、とにかく安全を確保でき、余裕を持って飛べる条件で行いましょう。モーターパラグライダーでの空撮の場合は右手で写真を撮るため、アクセルスロットルを左手で使えるようにする必要があります。撮影以前に、まずこの状態で安全に飛べるよう反復練習をすることが重要です。

スマホよりカメラがオススメ

パラグライダー空撮をするための機材は、できるだけコンパクトにしたいところです。最近のスマホはとても綺麗に写真が撮れますぐ、タッチパネルは片手操作ではなかなか撮りにくいでオススメはできません。コンパクトデジタルカメラ、もしくはデジタルミラーレス一眼カメラがオススメです。最初はポケットに入るくらいのサイズのコンパクトデジタルカメラで練習するのが良いでしょう。

空中からカメラを落とすことは非常に危険です。まず、カメラのストラップに落下防止のための紐（セーフティー）を取り付けておきます。この紐が短すぎると、撮影する時にひっかかって思った方向にカメラを向けられなくなったりするので、50cmくらいの長さがあるといいでしょう。

地上でカメラの設定をしておく

カメラの設定は、飛んでいる間ほとんどいじれないで、地上でセットしておきます。カメラの種類にもよりますが、最初は基本的に全てオート設定で大丈夫です。露出（明るさ）調整やフォーカス（ピント合わせ）をマニュ

アルにしていると、ちょっと設定がずれているだけで撮った写真全てが使えないものになる可能性があるので、気をつけましょう。まずは全てオート設定にしておき、慣れてきたら自分の好みで設定を変えていくといいでしょう。

カメラをしまう場所を決める

飛ぶ前にカメラをしまっておく場所を決めておきます。コンパクトカメラであればコンテナの取りやすい場所、もしくは胸ポケットがあればそこに入れておきます。ズボンやジャケットのポケット（胸以外）は取り出しにくいでやめておきましょう。ミラーレス一眼や一眼レフはそのままストラップで首からぶら下げておいても大丈夫ですが、取り出しが容易な1台用カメラバッグをハーネスにぶら下げておくと便利です。

レンズキャップがあるタイプは、飛ぶ前に外しておきましょう。電源はあらかじめ入れておいたほうがいいですが、離陸するときにどこかにボタンが当たって設定が変わってしまうがあるので、揺れてボタンなどが当たらないように気をつけましょう。落下防止のための紐も、カメラを取り出す時にひっかかるないか飛ぶ前に確認しておきましょう。（後編に続く）

山本直洋

写真家。1978年東京生まれ。フリーランスフォトグラファーとして活動し、モーターパラグライダーによる空撮を行う。「Earthscape」と題し、「地球を感じる写真」をテーマとした作品制作をライフワークとする。現在世界七大陸最高峰をモーターパラグライダーで飛行しながら空撮するプロジェクト「Above the Seven Summits Project」を計画中。その第一弾として2021年9月にアフリカ大陸最高峰キリマンジャロを空撮する予定。

■県連交流会を実施

福島県ハング・パラグライディング連盟
8月29日、福島県田村市仙台平エリヤにおいて、県連会員（70名）によるフライト交流会が開催されました。

本来、毎年行われる福島県総合体育大会の予定でしたが、新型コロナ感染症により中止が決定され、更にイベント自粛要請があり、大会開催が難しい状態となりました。刻々と変わるスポーツ周知依頼内容を観見しつつ5月理事会で県連会員による交流会（50名以内での開催）を検討、8月理事会で決定しました。

交流会の周知活動を行わず、県内スクール及びクラブのみへの連絡にて開催。当日36名が集まり、ターゲット種目とフリーフライトを行いました。さらに、5月に予定していた県連総会が書面表決になり実施されなかった県連表彰も同時にを行い、25年以上の継続会

員への功労賞1名とスカイスポーツ指導に対する指導者賞1名の表彰式が行われました。

久しぶりのメンバーとの再会は、自肃期間の中で明るく楽しい時間となりました。先の見えない情勢の中、各自が健康管理と感染症拡大防止を重視し、安全第一でのフライトを心掛けスカイスポーツを楽しむ事を確認し、無事に交流会を終わることが出来ました。また、今後の県連活動についても理事を中心に事業を継続していくことになりました。



感染対策を徹底し交流会を開催、楽しい時間となった。

■愛知・岐阜合同安全セミナー開催

愛知県フライヤー連盟
岐阜県フライヤー連盟

愛知県連と岐阜県連が合同で、安全セミナー【パラグライダー基本編】を開催します。

日時：11月7日（土）8日予備日

場所：岐阜県高山市原山

対象：パラグライダーパイロット（XCパイロット含む）

内容：ティクオフとランディングの基本講習

講師：加賀山務氏

参加費：2000円（講習費として県外者は2500円となります）+2000円（エリア及びエリア内の送迎代として）

募集人員：1～30名

問い合わせ先：岐阜県フライヤー連盟、愛知県フライヤー連盟

あらかじめ予想される天候、その他で、変更になることがあります。

2020ハンググライディング日本選手権 in 板敷 名草慧、速さで勝利するも不成立。

2020年10月1日-4日 茨城県石岡市板敷山エリア 報告：競技委員長 大澤 豊

強いサーマルと広範囲を飛べることが最大の魅力の春の板敷エリアで日本選手権を予定していたが、コロナ禍により延期を余儀なくされ10月開催となつた。例年なら天候が安定し春ほどではないものの好条件となる時期。しかし今年は停滞する寒冷前線が影響し、2タスクを行ったが日本選手権としての成立条件を満たす事は出来なかった。

初日は三つの低気圧に囲まれ曇り空。北東から東北東1～3mの風で若干の晴れ間も出るが気温が上がりソアラブルにならずに競技キャンセル。

2日目、関東地方は高気圧圏内で晴れ。ティクオフは北風本流、サーマルブロー南風2～4mの風で積雲もできて好条件となるが、ティクオフの風が怪しく上空での一斉スタートは難しいと予想しエラップスタイムでの競技に。

ティクオフオープン後40分程で風が入り、選手が飛び始め順調に上がりレース開始。エラップスだが先頭集団は12時30分スタート、第二集団は40分、第三集団が50分と綺麗に分かれた。

ファーストゴールは先頭集団で大門浩二らとスタートした鈴木由路、52分23秒。タイムトップは第二集団スタートの名草慧、48分38秒でこの日の1位。女子では鈴木皓子が一番にスタートを切り全体の15位で女子1位に。予想より好条件となり1時間切ったゴールが13人、全部で24人がゴール。

3日目は日本海の前線を伴う低気圧の影響で、午前中は晴れるが急速に上空の雲が張り午後は曇り。西北西から西南西の風1～3m。気温減率は悪くないが地上の気温が上がりサーマルが弱かった。昼前にティクオフオープ



2日目は晴れ。24人がゴール、名草がタイムトップ。

ンとなるが選手は誰一人飛び立たない。

一番に野尻知里がティクオフ、非常に弱いサーマルで上げ始める。後を追いたいがなかなか出られず、無風のタイミングでティクオフした選手たちの大半が上げ切らず、メインランディング場に。大門と野尻だけが800mほど上げ切りスタート、ミニマム距離を越えた。トップは大門の10.35km。しかし競



総合入賞者。20代から60代まで幅広い年齢層の選手が並んだ。



女子入賞者、鈴木と内田。

技性が低く全員が3点という結果に。

最終日は東北地方を横切る寒冷前線の影響で一日曇り、西北西から西南西1~2m。曇り空で気温が上がりずソアラブルにならなかったため、残念ながら競技キャンセルとなってしまった。

好条件で競技が出来たのは一日のみだったが、ハング界希望の若手、名草が唯一レースを行ったタスク2で圧倒的な速さでゴールし優勝。日本選手権

としては成立しなかったものの2月の紀ノ川スカイグランプリに続きハングシリーズ2連覇を達成した。ベテラン選手の強さが目立つハング界に20代の若手が光を放ち、今後の活躍を期待させてくれる。その持ち前の明るさと影響力で競技人口の増加も期待したい。

コロナ禍の大変な時期に大会が開催され、無事に終えた事を参加全選手と関係各位に感謝し御礼を申し上げます。

[総合]

1位	名草	慧	大阪	957点
2位	板垣	直樹	茨城	896点
3位	鈴木	由路	東京	856点
4位	大門	浩二	茨城	846点
5位	鳥羽	岳太	茨城	822点
6位	外村	仁克	和歌山	818点

[女子]

1位	鈴木	皓子	埼玉	683点
2位	内田	秀子	茨城	546点

2020パラグライディング日本選手権 in ASHIO 成山基義が初のタイトル獲得、女子は平木啓子！

9月18日-22日 茨城県石岡市nasa足尾山エリア 報告：競技委員長 板垣 直樹

2020年はコロナ禍により東京五輪をはじめ様々なイベントが中止され、世界中の人々にとって特別な年となった。パラの大会も例外ではなく春から夏にかけて多くの大会の中止を余儀なくされた。徐々にではあるが感染者が減少傾向になる中であっても、日本全国から選手を集めての日本選手権大会は賛否両論あり、いつも通りというわけにはいかなかった。

TASK 1

大会前の天気予報は、秋雨前線により全滅のおそれさえあった。そんな中で迎えた大会初日は、曇り空の南西強風で大半の選手はあきらめムード。それでも山に上がり風下に流す32.2kmのタスクを設定した。

強風で出済る大半の選手をしり目に地元の荒井や強気な選手が数人出るがそれでもほとんどの選手は観戦モード。最初の数機が加波山に渡り1000m

程まで上げ始め、ようやく上位選手が動き出し競技が始まった。

しかし西テイクオフは一機ずつしか出られず風も強めで、テイクオフ優先順位の高い選手は良かったが、後半の選手は雲が厚くなり日照が弱まってから飛び出し、大半は上げられずに23人がミニマム距離を越えられなかった。

一方、スタートを切った選手もセカンドターンポイントの難台山で上がりきらずに、東の平野、ゴールに向かうが、その後が続かず次々とランディングしていった。先頭集団の選手が下りた上空で弱いサーマルに乗った上山が距離を伸ばすが、ゴールまで7kmを残してランディングし、この日のトップとなる。

2・3日目は秋雨前線の影響で雨が降ったり止んだりの天候により競技キャンセル。

TASK 2

4日目は午後から晴れる予報で、タスクはスタート後、山沿いを二往復して西の平野を20km飛ぶ関城ULPゴールの35.3km。午後の晴れに期待しテイクオフオープンは12時10分、レースの上空スタートは13時10分。

前半の山沿い往復は青木・成山・上山が先頭集団となりリードする。平野に出るための最後の加波山で成山が一人抜け出し、大胆に単独でゴールに向かう。サーマルトップは1000mと高くはないが順調に飛び抜き、1時間26分で2位以下に40分近く差をつけてゴールを決めた。一方、二番手グループは



タスクもコロナ対応とせざるを得なかったが、4年振りに日本選手権が成立。次回はもっと大きなタスクにしたい。



選手も役員も少しの間だけマスクを外して、笑顔をカメラに。



総合入賞者。成山が初の日本選手権者に。



女子入賞者。最終タスクで平木が逆転優勝を決めた。



スポーツクラス入賞者。ペテラン、長島が勝利。

加波山で上げきれず粘りに粘ってスタート。女子選手の中目が集団を引っ張ってこの日の2番となる。

ベストな気象条件ではなかったが19人の選手がゴールし良いタスクとなった。

TASK3

最終日は昨日より減率が良くサーマルも良いが、午後から雲が張り出す予報で早めに競技を開始する。タスクも昨日とほぼ同じ山沿いを二往復し西の平野を20kmの関城ULPゴール。

ティクオフは強めの東4~6mの風だが68人の選手が50分でスタート前に全員無事に飛び出した。

この時期の足尾エリアには珍しく強く荒れたサーマルに苦戦する選手も多かったが、スピードレースの展開で前半は岩崎が先頭を進んだ。平野に出て集団で進み、若手の小林が一人抜け出しサーマルをヒット。何機かついていったが低く、ファイナルグライドで勝負に出た小林がそのまま見事にトップゴールを決めた。トップ3人は1時間を切るスピードレースとなり、48人の大量ゴールの最高の最終日となった。

秋雨前線と台風に挟まれた微妙な天候でトリッキーな条件の中、何とか飛べた初日。2日間のキャンセルを挟んで後半2日と3本が成立し、4年ぶりに日本選手権が成立した。

実力に定評のある成山が初の日本選手権を獲得した。2位には若手が台頭し小林。星田がペテランらしく安定の飛びをして3位に入る。女子は混戦から平木が抜け出し優勝を決めた。

コロナ禍の大変な時期に対策をしっかりと取り、全国から多くの選手が集まり大きな事故もなくゴール者も多く出る良い日本選手権だったと思う。

今回は通常よりもタスク距離を短く設定した。コロナ禍の状況であちこちにバラけてランディングすることを避けるためだが、選手によっては物足り

なく思つただろう。またいつか足尾エリアのポテンシャルを存分に発揮するビッグタスクを組んだ大会を開催したい。参加してくれた選手、スタッフ、関係各位に心より感謝を申し上げます。

[オープンクラス総合]

1位	成山	基義	大 阪	2165点
2位	小林	大晃	三 重	1957点
3位	星田	真一	熊 本	1823点
4位	岩崎	拓夫	京 都	1809点
5位	廣川	靖晃	静 岡	1806点

6位	平木	啓子	静 岡	1762点
----	----	----	-----	-------

[オープンクラス女子]

1位	平木	啓子	静 岡	1762点
2位	中目みどり	東 京	1487点	
3位	成山	奈緒	大 阪	1418点

[スポーツクラス総合]

1位	長島	信一	石 川	1340点
2位	臼井	紀人	神奈川	927点
3位	早坂真有美	東 京		919点

日本選手権者から

成山基義

ようやく日本選手権者になることが出来ました。これまで何度もチャンスがありながら勝ちきれなかったタイトルなので、素直にうれしく思います。これも自分を育ててくれたスクール、応援してくれた皆さん、そしてコロナ禍という難しい状況の中にも関わらず大会を開催してくれた主催者、それをサポートしてくださるスタッフと多くの人の力があってのことなので、全ての方に感謝したいと思います。

自分は選手として環境に恵まれて、これまで世界選手権やワールドカップと多く参戦することができました。世界の頂点に立つ!という目標はまだ叶っていないので、まだまだ挑戦者であることには変わりませんが、気が付ければそれなりの年齢にならざりました。これからは自分のことだけでなく、日本パラグライダー界のレベル向上に

少しでも役立てるような飛びや行動を心掛けていきたいと思います。

いま日本のレベルは確実に上がっていて、世界の頂点に立つことは夢ではなく目標に変わったと思っています。自分を含む誰かが世界の頂点を握る!今後も、ジャパンリーグで切磋琢磨しながらその目標に突き進みたいと思います。

平木啓子

新型コロナウイルスの感染拡大で、今年は世界中のほぼ全ての大会が中止もしくは延期となってしまい、この日本選手権は、昨年12月の朝霧以来の大会となりました。

大会期間中の天気予報が今ひとつだったことも重なり、なかなか戦闘モードに入れず、また試合勘も働く、1タスク・2タスクと様々な失敗をしてしまい、自力だけでは挽回が厳しいほどトップと点差がついてしまいました。最終タスク、今更焦ってもどうしようもないでの、力まず順位を気にせず、悔いが残らないよう自分の最善の飛びを目指そう、と切り替えました。

こうして達観できたのが功を奏し、スカッと会心のフライトで高得点を獲得、運にも恵まれ、逆転女子優勝することができたのでした。本当に日本の女子は実力者揃いで、勝つことはとても難しい中、女子日本選手権者の座を守れた事を大変嬉しく思います。

こうして再びみんなと競いながら飛べることを心から楽しみました。空はいいですね。そして大会は楽しい。早く感染が収まって、また元のように日本中、世界中の空を自由に飛べるようになる日が来ることを切に願います。

この大変な状況の中、勇気と英断で大会を開催し、そして素晴らしい運営で大会を成功させてくださいました主催者の皆様、スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

■上級タンデム技能証の取得を

上級タンデム技能証検定会を各地で開催しています。パッセンジャーに制限のないフライトをされる方は、上級タンデム技能証の取得をお願いします。今後の検定会の予定

●静岡県（スカイ朝霧）

11月25日（水）～26日（木）予備27日（金）
1月16日（土）～17日（日）予備18日（月）

2月20日（土）～21日（日）予備22日（月）

●和歌山県（紀の川スカイパーク）

12月15日（火）～16日（水）

お申し込みはJHFウェブサイトからお願いします。

■PG教本基礎技術DVDを頒布中

基礎技術DVD「JHFパラグライディング教本基礎技術」、第2弾「ティクオフとランディング」を頒布しています。

「基礎技術」はA・B級からXC証まで各課程を修了するため求められる基本的な飛行技術、「ティクオフとランディング」はライズアップから離着陸の基本操作のポイントを収録。頒布価格は各1,500円（送料込み）。最寄りスクールまたはJHF事務局へお申し込みください。

■転居のお知らせや各種申し込み

お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

<https://jhf.hangpara.or.jp/>

被災地復興
応援プロジェクト
「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟

JHFレポート231号

発行日：2020年（令和2年）11月5日

発 行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編 集：JHF事務局

印 刷：株式会社サンライズ

上空利用可能デジタル無線機
使用のお薦め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もなくクリヤーで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイトにバナーを掲載）からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として处罚の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。

